

まとめ

今年度の外部評価についても、これまで同様、「第 2 次伊賀市総合計画・第 3 次基本計画」（以下、「現行計画」という。）に掲げられている全施策を対象として実施し、まちづくりアンケートの結果や、基本事業ごとに数値目標として設定されている成果指標(KPI)の達成状況などに対する適切な分析（内部評価）がなされているかを中心に評価を行ったものである。

それぞれの施策に対する指摘事項については、行政内部で共有し、計画の進行管理や取り組みの改善につなげるとともに、あらゆる主体との協働によるまちづくりの推進に向け、この外部評価結果を公表し、市民や地域のみなさんとの課題共有にも努められたい。

【まちづくりアンケート調査の結果について】

今回、まちづくりアンケートの回答者数が 990 件と大きく増加した。現行計画は、市民の満足度と参画度を各施策の共通指標としていることから、まちづくりアンケートは、計画の進行管理や評価を行う重要な要素なので、引き続き、安定した回答数の確保を期待したい。

全施策の満足度の平均値は 1.5p 上昇し、50.8p となった。一方、参画度の値は 1.6p 下落し、42.6p となった。

分野・施策別では、昨年同様、「分野 2 生活環境」の施策である「上下水道」「一般廃棄物」「安心な暮らし」に対する市民の満足度や参画度がともに高いことがうかがえる。一方、「公共交通」や「定住・関係人口」については、昨年と同様、市民の満足度も参画度も低く、満足度では「中心市街地活性化」、参画度では「教育環境」が低い状況にある。

昨年度との比較では、「住生活環境整備」「安心な暮らし」「地域共生社会づくり」の満足度が大きく上昇した一方、「定住・関係人口」「文化・芸術」の満足度は大きく下落した。

なお、前年度、当審議会からの指摘にもあった「満足度が大きく下がった施策や毎年他の施策と比較して下位にある施策は、なぜ下がったのか、なぜ低いのかを今一度見つめ直し、まちづくりアンケートの結果を課題としてしっかりと受け止め、改善案等につなげていただきたい。」という課題への対応策として、今回のアンケートでは、前年度の当審議会でも指摘したこれまでから満足度が低い施策を中心に、どの項目（基本事業）を重視して判断したのかを問う設問が設けられた。回答者がどの基本事業に着目し、「満足している・していない」という判断したのか捕捉できることとなった。満足度が相対的に低い施策や昨年度に比べて大きく下がった施策などは、これらの結果も参考にしながら、その原因を探る手がかりとし、その改善策を講じられることを期待したい。

【基本事業の進捗及び成果について】

前年の指摘事項を受け、基本事業の課題の記載内容等に一定の改善が見られたが、指標の見直し等が見受けられなかったため、今回もいくつかの基本事業に対してあらためて指標の最適化に関する指摘がなされたところである。

過去には、3-6 就業・起業の「就労支援・職業相談」や、5-5 生涯学習の「図書館活動」のように、現行計画策定後、成果指標を補足する「サブ指標」が設定されるなどの対応が図られたこともあった。

毎年の進捗状況を確認するため、指標の安易な変更は避けるべきであるが、指標は取り組みの進捗状況やその成果を捕捉する拠り所であるので、社会情勢や取り組み状況の変化に柔軟に対応することも必要である。

また、指摘事項が今後の取り組みや進行管理に生かされるよう、前年の外部評価での指摘事項を翌年の施策シートに明記する等、進行管理の手法についてもさらなる改善を求めたい。

なお、昨年、「基本事業」の成果指標について、活動指標と思われるものとして 13 の基本事業を列举するとともに、2 つの基本事業を例に挙げて「相談件数」を指標とすること等に対し再考を求めたところであり、これらのことについても、課題として継承されたい。

【次期計画の策定にあたって】

現行計画は、今年度末に期間満了となる。また、すでに次期計画の策定方針が示されているところでもあり、審議の中で出された意見を踏まえ、以下の通り、次期計画の策定にあたって留意すべき点を挙げておく。

- 基本事業の指標は、活動指標ではなく、成果指標を用いること
- 指標は、その後の取り組みの成果や達成状況を的確に捕捉できるよう、適切な指標の設定に努めること
- 具体的な取り組みや指標だけでなく、分野・施策体系についても社会情勢や地域課題を踏まえた見直しを行うこと
- 計画策定後の情勢変化等に柔軟に対応できるよう必要な手立てを講じておくこと
- 過去の指摘事項への対応や、取り組みの進捗状況が捕捉できるよう、施策シートの見直しを行うこと